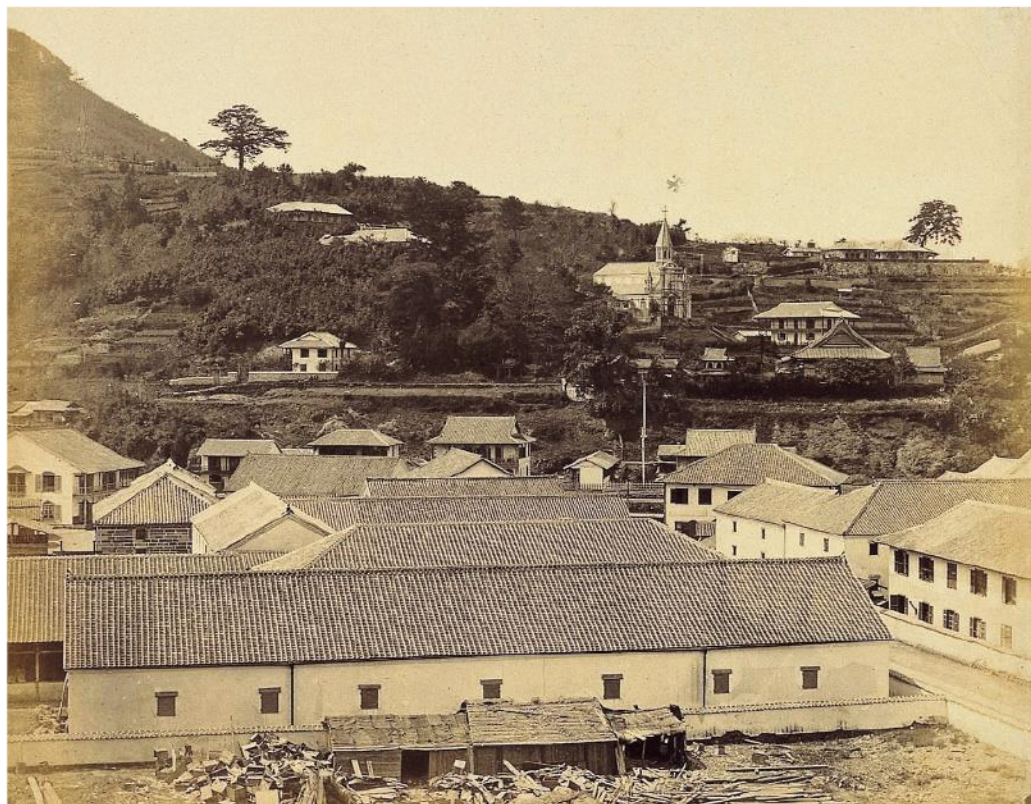


国宝 大浦天主堂

1864年にパリ外国宣教師会のフューレ神父と後任のプチジャン神父の尽力によって建築された大浦天主堂は「フランス寺」とも呼ばれた長崎外国人居留地に住むフランス人のためのカトリック教会堂であった。

1865年3月17日には潜伏キリシタンの信仰表明が行われた舞台として知られ、欧米諸国に大いなる感動と驚きをもたらした。2018年には「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」構成資産として世界遺産に登録されている。



大浦居留地から見た大浦天主堂
長崎大学附属図書館蔵



大浦天主堂
Collection Christian POLAK